

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや! 広島城



No.83

花見がてらに広島城跡めぐり



① 南小天守跡より

南小天守跡から見る西側の内堀。写真中央には、令和6年(2024)2月開業のサッカースタジアム(エディオンピースウイング広島)が見える。



現在、広島城跡の桜は、ソメイヨシノを中心に237本、堀の外周りには109本、あわせて346本ほどの桜があります(2025年調べ)。しかし江戸時代には、目を楽ませる桜ではなく、城の中が見透かされないように、杉や松などの、冬でも葉を落とさない針葉樹が目隠しのためにたくさん植えられていました。

お花見にご満悦のしろうニャさん▶

インスタ映え間違いなし！
桜とお城のコラボレーション



② 東側の小天守跡
(←しろうニャが座っているあたり)
本来の天守は、5階建ての大天守と、その東・南側に、3階建ての小天守が渡り廊下で繋がっていたが、明治時代に小天守は取り壊され、昭和33年(1958)に大天守のみ再建された。



③ 旧天守の礎石そせき
礎石とは、建物の柱を乗せる土台の石。
昭和32～33年(1957～58)の天守再建工事の際、撤去した旧天守の礎石を、ここへ移した。

◀花見団子をゆっくり食べるのに、いい感じの石



みくるまがえし
⑤ 御車返
本丸下段から上段に上がった、階段付近。ソメイヨシノより開花時期がやや遅く、花びらは濃いピンクで5枚から7枚ほどある。

おくぶたい
④ 奥舞台跡
本丸御殿(城主の住居兼、家臣が政務を行う建物)内で、奥舞台【天明元年(1781)に完成】があった場所。城主は、ここで能楽をもよおし楽しんでた。



うわみずざくら
⑥ 上溝桜
白い花が密集して棒状に咲く。その花の一つひとつは、まさに桜！横のスロープを上がると、そこは本丸上段。



⑦ 福島正則の石垣破却現場
二代目城主・福島正則が、城内の無断改修を将軍・徳川秀忠にとがめられ、石垣を崩したとされる箇所。でも結局、将軍の指示に従わなかったと見なされ、改易(領地没収)となってしまった。



猫じゃらしのような上溝桜の花▶



⑧ 石垣の刻印
正則時代に築かれたとされる石垣には、刻印（マーク）が刻まれた石が発見できる。



⑨ 天守へ続く石垣
かつて、こちらの高い石垣の上には櫓と土塀があり、本丸上段内を守っていた。



⑩ 三代目の鯨瓦
再建天守の初代鯨瓦は、平成3年（1991）の台風19号、二代目は平成13年（2001）の芸予地震の際に破損し、三代目が同年11月27日に付け替えられ、現在に至っている。



春の広島城もサイコーです！

（山縣紀子）



コラム — これからの広島城 — 広島城三の丸の整備

にぎわい施設がオープン！

令和7年3月31日、広島城三の丸第1期整備エリアに、にぎわい施設がオープン（3月29～30日はプレオープン）します。

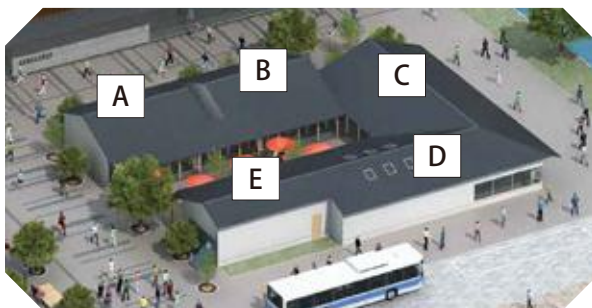


広島城三の丸イメージ図 第1期整備エリア（黄色枠内）

広島食、日本の食を楽しむことができる飲食店や、茶道・弓道などの歴史文化を体感・体験できる店舗のほか、広島県の逸品や話題の商品、地元で愛されるお土産を取り揃える物産館など5店舗を新設します。

また、エリア内にはトイレ、平面駐車場、観光バス乗降場、タクシー乗り場を整備します。

広島城天守をすぐ近くに感じながら、食べる、遊ぶ、学ぶ、歩く、憩うなど、広島食の歴史と文化に触れていきませんか？

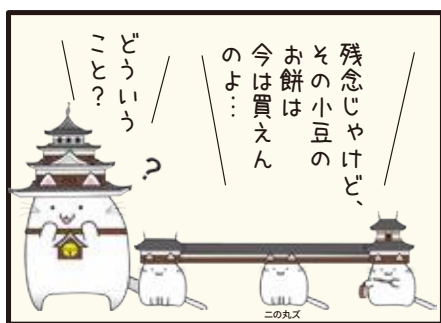
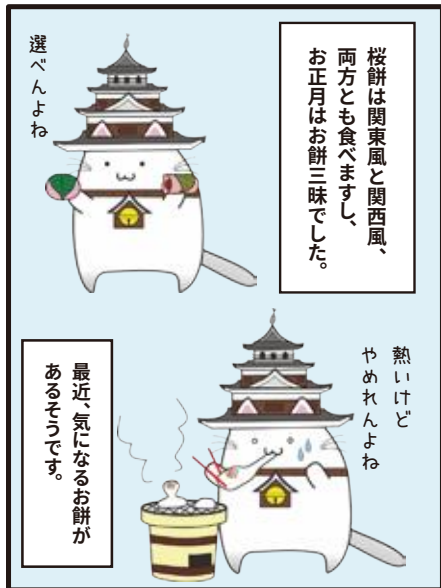


商業施設 店舗一覧

| 店舗 | 店舗名 |
|----|---------------|
| A | 炭火焼 鰻のうな輝 広島店 |
| B | 三の丸 八昌 |
| C | SOKO CAFÉ |
| D | ひろしま IPPIN |
| E | 広島城 射楽 |

（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当）

広島城下のお餅事情



しろうニャ！広島城

すいぜん、もち
～しろうニャ垂涎、幻のお餅って何？～

春といえば、花見団子に桜餅、端午の節句には柏餅…と、季節の和菓子には美味しいものがたくさんありますね。しろうニャさんはお団子とお餅が好物で、つねに新たなお気に入りを探しているようです…。

しろうニャさんが読んでいるのは、『知新集』という江戸時代後期の広島城下の地誌です。この巻一「年中行事」のなかに、毎年（旧暦）十二月一日に城下の人々が食べた、「川通り餅」と呼ばれるお餅のことが載っています。「川通り餅」と聞くと、今も広島で人気のきなこのお餅のことでしょ！と思われる方が大半かと思われませんが、『知新集』によると、江戸時代の「川通り餅」は赤小豆のお餅でした。

当時は、十二月一日に「川通り餅」を食べると、川を渡るときに転ばない、つまり水難に遭わないと考えられていました。これは南北朝時代、毛利氏の祖先・毛利師親が戦に勝利した際に、江の川（島根県）を渡る途中で鑑（馬に乗る時に足を掛けるための馬具）に石がひっかかった…という故事が由来となっているようです。この石に見立てた餅を食べる風習が、毛利輝元が広島城を築城した後、広島城下にも広まったものと考えられます。城下の横町（現在の中区大手町一丁目）にあった菓子屋の二文字屋などで売られていたようですが、詳しいことはわかっていません。また、江戸時代を通じて、この風習はさらに広島藩全体に広がったようです。草津村（現在の広島市西区）ではもっぱら塩餡のものが作られていたのが、明治の頃には塩を入れてつくる店がなくなった…というエピソードも残っています。

残念ながら、現在は水難除けに小豆餅を食べる習慣はなくなってしまい、売っているお店も見かけなくなりました。今買えるきなこの「川通り餅」もとてもおいしいので、しろうニャさんぜひ食べてみてね…！（吉田 文）

しろうや
！
広島城

編集・発行
公益財団法人広島市文化財団
広島城
〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519
令和7年3月13日発行

広島城利用案内
開館時間 9:00～18:00（12月～2月は9:00～17:00）
入館の受付は閉館の30分前まで
観覧料 大人370円（280円）
高校生・シニア〔65歳以上〕180円（100円）
（ ）内は30名以上の団体料金
休館日 12月29日～31日（臨時休館あり）
ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます